

(中大塩地区) 学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>小学校の統廃合に併せて学区の見直しもしてほしい。現在中大塩区は3つの小学校に分かれており、人数が少なくなってきた時には米沢小学校にまとめて通学できるようにしてほしい。</p>	<p>(市長) これは本当に悩ましい話である。市としても議論を重ねて来たが、やはり市民の皆さんに投げかけるべきだと判断したところ。また、個人的には4校ある中学校のように、全て小中一貫にすることも選択肢の一つとしてあり得ると考えている。</p> <p>(副市長) 小学校の統廃合については、茅野市全体の子ども達の教育の質を上げるために、もう一度学区含めて再編する必要があると考えている。</p>

(中大塩地区) のらざあについて

意見要旨	説明・回答要旨
<p>私は車椅子ユーザーで、今は手動式の車を自分で運転しているが、今後車が運転できなくなった場合に公共交通を利用することになる。のらざあは良い仕組みだとは思いますが、聞いたところによると高齢者の押し車も乗せられないと聞いた。私たちのような体が不自由であったり高齢であったりする人たちに対してどんな計画でいるか伺いたい。</p>	<p>(市長) おっしゃるように、「のらざあ」には様々な課題があり、完璧な物とは思っていない。荷物の持ち込みについても、タクシー業界との話し合いの中で航空機と同じ基準でという話になった。当初は障害を持った方でも乗れる造りの車両を導入する計画だったが同じく話し合いの中で諦めた。運行範囲やドアツードア、即時配車についても、システム的には可能だが、タクシーと差別化するためにあえて現状の形をとっている。タクシーやバスは、長い間地域の足を守ってくれた人達でもある。なので、そこに対して敬意を払い尊重していくべきだとも思っている。そのような思いの中、我々も少しずつ改善をしていくよう話をしているので、要望やニーズ、お気づきの点があればどんどん言ってほしい。</p>

(中大塩地区) 地域防災について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>中大塩の防災訓練には、車椅子以前に障害者の方がほぼ出てきていない。これではいざ天災的な地震などが起こったら大変なことになる。そういう時に、車椅子牽引装置が区に1つあったとしても、障害者の人数が多かったり使い方が分からなければ活用ができない。なので、地域福祉課に日常生活用具として認められないか話したところ、断られた。これは高齢者や障害者、周りにいる人達にとっても不幸な事だと思うので、日常生活用具として普段から使い、ノウハウを知っておくことが必要だとおもう。そんなことをお願いしたい。</p>	<p>(市長) 私も車椅子牽引装置の良さは分かっているものの、国で認定してもらえていないものなので、市でも認定は難しいというお話だったかと思う。</p> <p>(防災課長) 具体的な検討はまだ進んでいないが、福祉が駄目なら防災用のグッズの対象として、区の自主防災への補助なども検討できると思う。</p> <p>(地域創生政策監) 車椅子牽引装置は雪が20cmくらい積もっても、階段でも登れる優れものである。まだ全国でどこも認めていないので、行政として進めるのが難しくなっている状況。去年は市役所で防災や福祉関係者に見ていただき、福祉サイドでは社会福祉協議会で購入し、観光サイドでは、ちの観光まちづくり推進機構に寄付していただき徐々に浸透させているところ。今後は社会福祉協議会の方から必要性について提言を上げていただくことを考えている。また、茅野市が採択されているデジタル田園健康特区を利用して、実験的に日常生活用具として使用できないかという事を諏訪広域の介護保険にも相談しながら突破口を開きたいと思っている。ほかにも、皆さんのお仕事や日常生活の中で、法律などの規制によりやりたくてもできない事があれば教えていただきたい。DXプラス規制緩和というのは新しい社会を築く上で極めて重要なものなので、色んな課題、ご意見をいただきたい。</p>
<p>去年のまちづくり懇談会で要配慮も含めた個別避難計画を策定していると話していたが、それはどこまで進んでいて、いつできるのか。スケジュールはできているのか。</p>	<p>(防災課長) 個別避難計画に関してはまだ全市的な取組はしていない。現在推進体制作りをしているところ。それは市だけではなく、社会福祉協議会、民間、ケアマネ、民生児童委員、といった方々の協力が必要なため、体制作りが整ったところで各地区の方にお話にいきたいと思っている。スケジュールも今組んでいるところである。</p>

(中大塩地区) 中大塩地区の課題

意見要旨	説明・回答要旨
<p>【課題1】 【地区・区役員の担い手不足についての説明】</p>	<p>(市長) まさに中大塩区も茅野市全体と同じような課題を抱えていて、これを乗り越えるためには中大塩だけではなく周辺の皆さんの力も必要かと思う。市として区のあり方・体制を変えていくための協力はしていきたい。広報ちのも配らなくても手元にとどく、デジタル化に向けて、試験的にモデル地区を作り、進めているところ。</p> <p>(企画部長) パートナーシップのまちづくり推進課で、来年あたりから各区にDXを活用して情報伝達のあり方を変えていくようなモデル区の募集をしている。確か中大塩区も応募していただいている。そういった中での良い先行事例は横展開していければと考えている。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 今のモデル区の話で、先日の区長会の中で区の負担軽減にはDX化推進が挙げられ、中大塩区はモデル地区として実践していただいている。また、ほとんどの地区で担い手不足、負担軽減を望む意見が出ており、市役所のほうでも今年の2月から始めたところ。お手元の資料の「区・自治会の役員等の負担軽減・担い手不足への対応について」に沿って進めている。また目を通していただきたい。</p>
<p>【課題2】 【自主防災による災害時の対応についての説明】</p>	<p>(市長) 災害時の昼間、地区に若い人がいないという問題は茅野市全体の問題である。先日、北山地区で防災訓練をした際に北部中学校の生徒さんに参加していただき、一生懸命やっていた。東日本大震災の時にも中学生くらいのお子さんが避難の声掛けや、防災非常時において活躍してくれたという話もある。そのあたりのお話を校長先生にお願いしたい。</p> <p>(北部中学校校長) 今年度生徒会を中心に、今後どのように地域の地区と関係を築いていくかという事の1つの中で、防災に関わる中学生の地域貢献について考えていたところ、北部中学校を会場に防災訓練を実施していただけたというお話をいただき、約30名で参加させていただいた。まず、私含めて実際こんなふうに市役所や地区の皆さんが対応するというのを初めて知った。子どもたちでは、「崩れた家屋を上げる時のジャッキについて学校で学習したてこの原理が使える、など普段の学びが活かせる事がよくわかった」「支給される水は背負うとこんなに重いとわかった」、「防災テントはこんなに簡単に立てられるのか」、「実際に寝ると痛い」など体験して初めてわかる事が沢山あった。上手に学校の学習活動の中に組み入れたいと思っている。</p>

(中大塩地区) 中大塩地区の課題

意見要旨	説明・回答要旨
<p>【課題2】 【自主防災による災害時の対応についての説明】</p>	<p>(市長) 昼間に若い人がいない状況で、結構中学生が頼りになるということで、全市的に中学生に色々な経験をしてもらって、いざという時頼りになる存在の1人になってもらえれば。どうしても災害時の不安を解消するためにも退区はしない方がよいよね、入区していた方がいざという時に安心だという形をどのように作っていけばよいか色々な試みをしているところ。</p>
<p>地区の民生児童委員協議会では区長会と共同作業で避難行動要支援者名簿と防災マップを毎年作っている。しかし、実際に支援が必要な方をどのように誘導していくのか、さらには避難所で障害者は障害者として避難できるような場所を作っていかなければならないと思うが、そのような話は聞いたことがない。中大塩は小学校が3校に分かれているため、避難所となる体育館も3校に分かれるわけにはいかず、まして障害者はどこへ避難したらよいのかという問題を解決できない状態である。ぜひ市の方でも音頭を取ってもらえたらありがたい。</p>	<p>(防災課長) 地震や火災、色々な災害があると思うが、まず本日の会場でもある中大塩コミュニティセンター周辺に避難をして集合していただき、それから市の避難所である各小学校の体育館に移動することとなる。おっしゃるように地区で避難先の体育館を決めるわけではないので、日頃から想定をして決めておいていただくことになろうかと思う。また、福祉避難所として市内の温泉施設を位置付けており、障害をお持ちの方の避難所となり得るかも検証しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>(地域創生政策監) これからのデジタルの時代は一人ひとりの状況を的確に把握して医療従事者とも共有していかなくてはならない。要支援者の名簿も、本人の了解を取りつつ病院のカルテや処方されている薬と結び付けて、福祉避難所においても看護師が電子カルテをみて処方するということができるのがDXである。徐々にではあるが、市民の皆さんのデータを共有させていただき、理想的な避難ができるよう進めていきたい。</p> <p>(地域DX推進係長) DXに関連した市の取組で、デジタル田園健康特区におけるモデル地区として、小児夜間診療のオンライン化を進めている。諏訪の小児夜間急病センターで経営、医師の確保が難しいという話を聞く中でオンラインを使って、市内の医師だけでなく、ある程度集約したネットワークでオンラインで診療できないかというようなことを実験していく。詳細な部分はこれから詰めていくが、今後ご案内できればと思っている。</p> <p>(市長) これはつくば市でやっていたものを茅野市で実証実験するという形のもの。全額国費でできるものなので、ぜひ活用していただき、使い勝手についてご意見をいただけるとありがたい。</p>

(中大塩地区) その他

意見要旨	説明・回答要旨
<p>国保の特定健診について、申込みをしようと諏訪中央病院に電話をしたら、予約枠がいっぱいで受けられないと言われた。その数日後、市からのラインで特定健診を受診してくださいとの案内がきた。市としてどのような対応になっているのかお聞きしたい。</p>	<p>(財政課長) 国民健康保険の方で40歳から74歳の方は特定健診が受診可能である。ただ、なかなか予約が取りづらい状況もあるかと思う。そのような時は、その旨を病院にご相談いただくか、市の健康づくり推進課にお問い合わせいただければご案内ができるかと思うので、そのようにお願いしたい。</p>